

霊的な礼拝

2021年9月12日

サムエル記Ⅱ 24章 (並行箇所 歴代誌Ⅰ 21章)
ローマ人への手紙 12章1節

序：ダビデの一生の不覚 (1)バテシェバ事件 (姦淫、殺人) 預言者ナタン
(2)人口調査 (高ぶり、神を忘れた) 預言者ガド

罪を犯した者が、神に受け入れられる礼拝をささげるまで

I. 人口調査 (兵を数えるため)

- (1)神の命令ではない (主から出たことではない) ⇒ みこころに反した
動機 (ダビデの虚栄心、兵力を誇りたい)
- (2)家臣 (將軍ヨアブ、將校) たちの不安・ためらい、質問をも意に介さず強行命令
權威で押さえ付け、押し切る (傲慢、頑固、むきになる)
- (3)調査・報告
全土、9ヶ月と20日かけて
兵の登録人数 = イスラエルは80万人 + ユダは50万人

II. ダビデの認罪

良心のとがめ
罪の告白
解決を主に求める

III. 主が預言者ガドを派遣

- (1)主の提示された3つの懲罰の中から1つを選べ
①7年間の飢饉 ②3ヶ月敵の前を敗走 ③3日間国中に疫病
- (2)ダビデの選択は③
∴②だと人の手に陥るが、③だと神の手に陥る
敵は無慈悲 神は憐れみ深い

IV. 結果

- (1)イスラエルに疫病がくだされた
- (2)7万人が死亡 (130万-7万) 神の御力 > 兵力
- (3)エルサレムにくだそうとしていた災いを主が思い直された
(疫病で民を打っていた御使いを制止) 主のあわれみ (14節)

V. ダビデのとりなし

- (1)罪を犯したのは自分、民には責任がない
- (2)罰を受けるのは自分と一族だけに
王 (民の羊飼) は民 (羊の群れ) のため懇願

VI. エブス人アラウナの打ち場

- (1)疫病が止められた場所
- (2)主がガドを通して、ダビデに祭壇を築けと命じられた場所
- (3)後にソロモンが神殿建設する用地として聖別 歴代Ⅰ 22・1
ダビデはさらに用地全体のため600シケルを支払った 21・25
- (4)かつてアブラハムが愛する子イサクをささげたモリヤの山
創世 22・2、歴代Ⅱ 3・1
- (5)約千年後に、ダビデの子孫救い主イエス・キリストが贖いの代価として
ささげられる場所

Ⅶ. 築かれた祭壇

- (1) 主の命令に従い上っていくダビデ
- (2) 恐れ慄き、ダビデを迎えたアラウナ
- (3) アラウナの打ち場を買って、祭壇を築く（主の罰を終わらせる）と告げる
- (4) 打ち場ばかりか、全焼のささげものとする牛、薪の提供を申し出る
「神があなたを受け入れてくださいますように」
- (5) 代金・費用を払って、全焼のいけにえをささげた
- (6) 神がイスラエルの祈りを聴き、罰を終わらせた

Ⅷ. ふさわしい礼拝 ローマ 12・1

- (1) 霊的な礼拝（霊なる神に、霊とまことをもってささげる礼拝）
主なる神にも、礼拝者である我らにもふさわしい

(2) 全面的な献身（全焼のいけにえ）

動物のいけにえも欠陥のない聖別されたもの
ただし、ほふって捧げるので死んでいる
それを全部残さず焼いて主のものとする

- ① キリスト信者はたましいを包んでいるからだをささげる
（からだをもって善き業をなす／霊とからだは不可分）
- ② 神に喜ばれる（受け入れられる）ささげものとして
神が定められたみことばの基準に合っている
- ③ 聖なるささげものとして
罪・汚れを洗いよめられ（主への悔い改めと信頼）
世から聖別されたもの、神に属するものとして
- ④ 生きたささげものとして
旧約の儀式律法ではいけにえは、ほふってささげた（死んでゐる）
私たちは生きたからだをもって善い行いをする
信仰の実（結果）、表出、具現

結び : 全人的献身（身も心も）という形でささげられる礼拝＝神に対する最高の奉仕
いつでも、どこでも、ダビデが失敗しても、罪を犯しても、あわれみに頼って
主に悔い改め、赦されて、ふさわしい方法で復帰したように、私たちも何度
でも立ち返って歩むことができる
なぜなら、贖いの代価は、主イエス・キリストによって十分に払われているから
である
ダビデが祭壇を築いて、全焼のいけにえと和解のいけにえをささげた時、主に
受け入れられた。祈りが聴かれて、疫病の苦しみから解放された。
それに先だって、自分の罪を認め、言い表し、受けるべき懲らしめを受け、
巻き添えになった人たちのためにとりなした。自分の考えによってではなく、
神の仰せのとおりに従った時、後世までの祝福の基となった。